

## ビジネス最前線

## えぐち税理士事務所

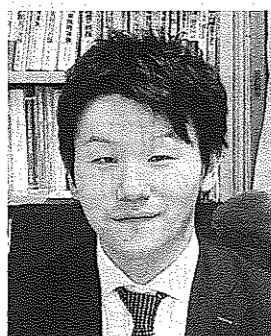
[会社概要]  
 住所：〒849-0922  
 佐賀市高木瀬東 5-9-10  
 ☎ 0952-31-7565  
 ☎ 0952-31-7566  
 http://eguchi-office.tkcnf.com  
 代表者：江口 賢輔  
 開業：平成19年9月  
 業種：税理士事務所

## “Client First”～お客様の利益を第一に！

平成19年9月に開業した「えぐち税理士事務所」。開業して1年足らずの税理士事務所であるが、競合が激化している税理士業界の中で顧問先が着実に増えているという噂を耳にし、江口所長を訪ねた。

## ■ 江口 賢輔税理士

所長の江口 賢輔税理士は昭和53年12月生まれの30歳。佐賀大学大学院経済学部金融・経済政策専攻を修了後、平成15年11月、福岡市の税理士法人に入所、同年12月、税理士試験に合格した。



その後、同18年3月、税理士登録を済ませ、たまたま佐賀市内の税理士事務所が後継者を探していた事もあって同19年9月に開業した。佐賀市内に事務所を構える税理士事務所の中でも一番の若手である。

## ■ “Client First”

江口所長のモットーは“Client First”。つまり顧客の利益を第一に考える事。江口所長は「未だに年に一度の決算書作成等の業務のみを行う記帳代行税理士事務所もありますが、もうそんな時代ではないと思います。私は自身が最低月1回以上クライアントを訪問する事を前提にし

ています。社長に直に面談する事で社長の意気込みをヒヤリングし、その夢をどう具体化していくか。いわゆるコンサルタント的な業務をしていかなければならないと思っています。顧問先だけではなく、セカンドオピニオンの立場から金融対策(現状分析、現実味がある経営改善計画作成等)を行う場合もあります。クライアントが私に何を求めているのか。その要望に対する確かなアドバイスをやっていく事。これが私のスタイルです」と話す。まさにお客様第一主義だ。

## ■ えぐち税理士事務所のメリット

当税理士事務所は現在までの売り上げがいくら？ 利益はどの程度出ているか？ 資金繰りはどうか？等、経営者が一番知りたい情報をいち早く把握する為に、財務会計ソフトを利用した自計化支援を行っている。また、TKC継続MASシステムを利用した経営計画の作成支援を行っている。さらに、現在最も企業が直面している問題である事業承継。

この問題について江口所長はクライアントと一生つきあいたいという想いを胸に事業承継問題に取り組んでいる。これまでも(独)中小企業基盤整備機構等が主催する事業承継セミナー等でも講師として講演を行

う等、事業承継の際に発生しやすい税金問題、事業を継承する二代目、三代目の意識改革、スムーズな事業承継を行う為のノウハウ伝授等、分かり易く説明している。

## ■ 正しい税務申告とは

江口所長が推奨するのは税理士法第33条の2第1項に基づき納税者から委託された税理士が税務申告書の作成に際し、計算や整理を行い、また、相談に応じた事項を明らかにした書面を添付する制度。

この書面添付制度を利用した場合、代理人である顧問税理士に税務調査通知前に意見を述べる機会が付与されるという利点がある。つまり、税務調査による時間のロスやストレスから解放される。江口所長は「ま

だまだこのシステムは浸透していません。全うに税務申告している企業はこのシステムを利用すべき。煩わしい税務調査から解放されますし、金融機関が一番気にしている決算書の信憑性を高めます」と推奨する。

## ■ 今後の飛躍に期待

現在、えぐち税理士事務所は佐賀県・福岡県・長崎県に65社(名)のクライアントを有している。

前述の通り江口所長は弱冠31歳の若手税理士。フットワークの軽さ、親身になって相談に乗る人柄、的確な指示教育等で着実にクライアントを増やしている。今後のさらなる飛躍に期待したい。(坂口)

## かわら版



## 承 継

熊本の老舗の建材販売及び、工事会社の66才の会長が、このたび社長職に復帰した。氏は実際は二代目ながら、実質創業者の足跡を残してきた。そして、販売先を含めた基盤を形成した。数年前、子息たちへの事業継承に着手したものの、業界はもちろん、全般的な経営環境が変化する時代のかじ取りの難しさなどもあって、思惑通りの展開にはならなかったようだ。

こうした事情もあって、慎重かつ熟考した結果、「おかげで、健康だし気力も漲っている。よし、再びやるか！」と決意したそうだ。もっとも、『本当の事業承継ができるまで』ということのようだが。

いずれにしても、企業は永遠ではない。しかし、経営者は継続させる責務

がある。

ベテランの気概に圧倒されるばかりであるが、反面、若手の力量不足や気迫の薄さを感じざるを得ない。同時に事業承継の難しさを垣間見たような気がする。

この背景には、先に発表されたスズキの鈴木会長の8年ぶりの社長復帰報道があったようだ。氏はこうコメントしている。「平時なら若返りを図らなくてはならないが、経営環境が急激に悪化したため、今まで責任を持ってやってきた人間たちで危機を切り抜けた」と。必ずしも人材がいなかったことはないと思うが、この「非常時」に『重鎮』の登場である。それにしても、事業承継は難しいものだ。

(川宿田)